

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

(別紙様式)

都道府県番号	39
都道府県名	高知県

(☐ ☒ ☐)

・学校名及び規模

宿毛市立東中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級 (障害児学級)	計	教員数
学級数	1	2	2	2	7	16
生徒数	40	42	45	2	129	

・実践研究の概要

・主題(テーマ)

小規模校の特性を生かした学習集団(授業形態)の工夫を図り、分かる授業づくりを推進する。

・テーマ設定の趣旨

CRTの結果(過去5年間において、6年生の学力の定着度は全国通過率が4教科すべてマイナスの結果)をみると、低学力の生徒が多く、一斉授業では学力差が開く傾向にあった。そのため、個に応じた指導、授業形態の工夫・改善が必要と考え、小規模校の特性を生かして、コース(習熟度)別授業、TTの導入、抽出促進授業を実施することにした。基礎・基本の確実な定着を図るとともに、特に学習の遅れがちな生徒の指導の在り方を工夫改善し、すべての生徒に確かな学力と進路を保障することを目指し研究を推進してきた。

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

英語と数学のコース別部会を月1回、全体会を月1回定期的に実施し、研究を進めた。

() 実践研究の内容

2・3年の数学と英語においては、少人数コース別授業を実施

【数学】

2年生は、各クラスをA・Bの2つのコース、3年生は、各クラスをA・B・Cの3つのコースに分けてコース別授業を実施している。

< 2年コースの内容 >

Aコース(5名程度) ... 1年の復習をしながら2年の基礎的な内容を学習する。

Bコース(15名程度) ... 2年の教科書のすべての内容を学習する。

担当教員はAコース2名、Bコース1名で指導している。

< 3年コースの内容 >

Aコース(5名程度) ... 1・2年の復習をしながら3年の基礎的な内容を学習する。

Bコース(20名程度) ... 2年の復習をしながら3年の基礎的・基本的な内容を学習する。

Cコース(20名程度) ... 3年の教科書のすべての内容を学習する。

担当教員はAコース2名、Bコース2名、Cコース2名で指導している。

テストは同一のテストを行っている。(Aコースの内容は20%~50%、Bコースの内容は50%~80%程度)コースは学期ごとに希望調査し、人数や適性に応じて

調整している。

〔英語〕

2・3年すべて3コースでコース別授業を実施している。

< 2年コースの内容 >

Aコース(10名程度) ... 1年の復習をしながら2年の基礎的な内容を学習する。教科書の基礎的な問題が解けるようにする。

Bコース(20名程度) ... 2年の基礎的・基本的な内容を中心に学習する。

Cコース(15名程度) ... 2年の教科書の内容を学習し、応用力を身に付け、自己表現ができることを目指す。

担当教員はAコース2名、Bコース2名、Cコース1名で指導している。

< 3年コースの内容 >

Aコース(10名程度) ... 1・2年の復習をしながら、3年の基礎的な内容を学習する。教科書の基礎的な問題が解けるようにする。

Bコース(20名程度) ... 3年の基礎的・基本的な内容を中心に学習する。

Cコース(20名程度) ... 3年の教科書の内容を学習し、応用力を身に付け、自己表現ができることを目指す。

担当教員はAコース2名、Bコース2名、Cコース1名で指導している。

テストは同一のテストを行っている。コースは学期ごとに希望調査し、人数や適性に応じて調整している。

() 成果と課題

アンケート調査結果

〔数学について〕

2年

3年

(人)

	コース	はい	変わらない	いいえ	はい	変わらない	いいえ
コース別授業は分かりやすいですか	A	6	1	2	2	1	0
	B	13	17	0	18	4	0
	C				14	4	2
	合計	19	18	2	34	9	2
コース別授業をやってよかったですか	A	7		2	3		0
	B	29		1	22		0
	C				17		3
	合計	36		3	42		3

〔英語について〕

2年

3年

(人)

	コース	はい	変わらない	いいえ	はい	変わらない	いいえ
コース別授業は分かりやすいですか	A	4	1	0	3	2	1
	B	14	2	0	16	4	0
	CA	14	4	0	15	4	0
	合計	32	7	0	34	10	1
コース別授業をやってよかったですか	A	4		1	6		0
	B	16		0	20		0
	C	18		0	17		2
	合計	38		1	43		2

3 年英語実力テストの平均点

	1 回 5 / 7	2 回 6 / 21	3 回 9 / 4	4 回 11 / 19	5 回 1 / 15
A コース	1 3 . 3	7 . 9	1 4 . 6	2 1 . 0	2 7 . 5
B コース	2 6 . 6	2 3 . 8	3 1 . 4	4 0 . 6	4 3 . 2
C コース	5 3 . 2	5 4 . 3	6 4 . 9	6 8 . 3	7 5 . 7
学年平均	3 1 . 0	2 8 . 7	3 7 . 0	4 3 . 3	4 8 . 8

3 年英語については、総合力のする実力テストにおいて、どのコースも徐々にではあるが成果がみられる。このことは英語の力が総合的に伸びているように思われる。また、アンケート調査結果からも分かるように、授業が分かり、積極的に授業に参加する生徒が増えてきた。その結果、力が付きそれが自信につながり、より積極的に学習に参加できるようになってきている。コース別授業では、授業内容を生徒の学力にあわせて工夫することができ、すべての生徒が授業に参加できる。また、少人数編成なので、質問もしやすく一人一人自分のペースで学習することができる。

コース別授業の成果はかなりあるが、コースの人数や、コース内での学力差、コースでの学習集団づくり、学習に取り組む姿勢に問題のある生徒の指導などの課題もある。また、授業の精選、テストの内容、評価の仕方、T T の在り方など、担当教師間での連携を図って進めていかなければならない内容も多くある。そのため、月 1 回はコース別部会を開き全員で課題を把握し、コースの主任は随時情報交換をしながらすすめている。

() 成果の普及方策

- 平成 1 4 年 8 月 9 日 平成14年度学力向上連絡協議会(西部地区管内中学校研究主任会)
で実践発表
- 平成 1 5 年 2 月 2 1 日 平成14年度第 3 回西部地区学力向上推進協議会で実践発表
- 平成 1 5 年 2 月 2 4 日 平成14年度第 2 回高知県学力向上連絡協議会で実践発表